

三里塚へ

日刊
動労千葉

82.10.8

No.1165

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（八巻）五三二七・二〇七

怒りの総決起で 革マルの謀略デマを粉碎しよう

10/11三里塚現地闘争は、目前にせまった。我々は、先に用かれたオワ
回定期大会で臨調行革攻撃、転場規律の確立をはじめとする「11項目」
攻撃、5/11ダイ改攻撃など政府支配階級の国鉄労偽運動根だやし攻撃へ
の反撃の力が、まさに10/11総決起にかかっていることを全体で確認した。
「10/11」が今秋、来春にかけての怒りの総反撃の決定的突破口だという
ことはすでに『日刊』前号で明らかにしたが、大会にかけつけた反対同盟
北原事務局長は、つぎのように訴えた。（発言の要旨を紹介する）

革マルの謀略デマ攻撃を断じて許さない！ 10・11に総結集してほしい 北原事務局長

動労千葉との労働争いを、この一年間さら
に深めなければならぬと思っております。
今、革マルは、反対同盟に対する敵対を強め
ている。これまで一体、革マルは何をやってきた
のか。三里塚にこのときは、権力と一体となっ
た敵対と集会破壊以外なかった。革マルは、
権力の先矢だ。労働者の敵だ。

九月二日、「成田用水」をめぐる実行役員会
の日に、「北原は権力と密通したスパイだ。成田
用水問題より、この問題糾明を優先すべきだ」
と、反対同盟の一人一人に電話してきた。実行
役員会が北原追及で混乱し、成立しなければ良
い——と願う、革マルの謀略デマである。

しかし、こんな根も葉もない、うす汚いデマ
上げデマ宣伝は、効かなかった。当然である。
そして、これと軌を一にして、九月四日には、
「成田用水推進派のヒラ入れがあった。その内
容は、①「用水」は必要なので、反対の声をまごわ
されることなく推進しよう。②「補助率」の高いう
ちに推進しなければ、末代にまで悔いを残すぞ、
——と言ったものである。

叩く反対同盟を守れ！全力で現地へ！

あらゆる困難にめげず必死に叩き続ける反対同盟のこの訴えに、応えよう
ではないか。なんとしても、叩く反対同盟を支え、守りぬこう。われわれ動労
千葉は、自らの叩きとして位置づけ、あの「78年9/17最大動員」現地40名結集に迫
り、上まわる空前の大結集の実現めざして、奮闘する決意である。動労千葉の底力を出し
きろう。まなじりを決して、全組合員の総力決起で、10/11の三里塚闘争をかちとろう。

しかし、「補助」とは一体何か。「二期」への見返り
施策、すなわち「買収費」そのものに他ならない。
続いて、革マルは「北原問題」と称して、今度は
みえすいた合成写真をつくって、現地に入りこみ
反対同盟員の向を攪乱させようと策動してきた。
三里塚闘争に敵対する革マルを三里塚に送
りこむ↓トラブルを起こさせ、権力が介入↓その
中で成田用水を一気に押し進め、反対同盟を解体
する。このような筋書きの、三里塚にかけられた
敵の狙いは、動労千葉へかけられた敵の攻撃と
同盟のものだ。

しかし、反対同盟は、この権力、革マルの一体と
なった狙い、敵対を断固はねつけ、叩きぬいてい
る。三里塚闘争は、全国住民闘争の天王山で
ある。三里塚の叩きが、反戦・反核につながる
砦だ。どんなに暴悪な攻撃をうけようこ
も、ここで負けるわけにはいかない。

動労千葉との仲間関係を強め、一億人民の
先頭で叩いていきたい。
10/11には、多くの人が結集してほしい。